

「よし！みんなでチームを組もう」

2026・1・7 校長 重枝一郎

法隆寺大改修の棟梁であった宮大工の西岡常一さんの内弟子で薬師寺の金堂、西塔の再建に副棟梁として携わった小川三夫さんの著書にこのような話がありました。「ねじれ癖のある木をどのように組み合わせていくかがとても重要です。それは人も同じで、それぞれの個性を生かした組み方をすれば、その個人の力量を足したもの以上に力が得られます」という話です。寺院の改修や再建といった現場には、いろいろな人が集まって仕事をするそうです。小川さんは仕事をする際のチームビルディングをする上で、このような考え方を大切にするとはいいます。

みなさんなら、私が何が言いたい、もう分かると思いますが、学校生活も共通するところが大いにあります。誰かの「より良いクラスづくり」と、違う誰かの「より良いクラスづくり」の姿はそれぞれ異なっているかもしれません。でも、目標を共有し、それぞれの個性を組み合わせ、そこに向かっていくことが大切になります。そのために、互いのよさを認め合い、お互いを尊重できるクラスにしなければなりません。

もちろんいろんなトラブルはあると思います。でもみなさんは心配せず明るく仲良く勉強してほしい。クラスでも部活でもリーダーという役割はあります。よくリーダーは、“孤独”と言われます。それは判断する時に責任が伴うからだだと思います。私も校長なのでそう感じる時は多くあります。でも、私は本当に先生方に支えられている実感も持っているので、“孤立感”はありません。仲間に感謝しています。ありがとう。

私は、もし大きな失敗をしたとしても、時を戻すことはできないので、みんなに謝って軌道修正をすることが大事だと思っています。それが勇気のある人だと思っています。しかし、このマインドをもつには、“**孤独であっても、孤立しない**”ことが大切になると思います。そうすることで柔らかに自然と「より良い学校」になっていくと思っています。だから、みなさんも、メンバーはリーダーを“孤立”させないように支えてほしいと思います。

私はこのような話をするときはいつも、最後の教え子のサッカー部を思い出します。そのサッカー部は、部員3名から始まり、3年後やっと11名になり、福岡市70校の区大会・市大会を勝ち抜き、県大会に進んだチームです。そのメンバーの共通項は中学生というだけで、ねじれ癖のある木どころか、まったく大きさも形も違う11名でした。

そのメンバーたちから私が言われた言葉です。

「別にサッカーが好きではない」「パティシエになりたいのに重枝先生から無理やりサッカー部に入れられた」「生徒会長ならサッカー部に入れと理不尽なことを言われた」「学校をさぼるならサッカー部に入っとけ」などなど。

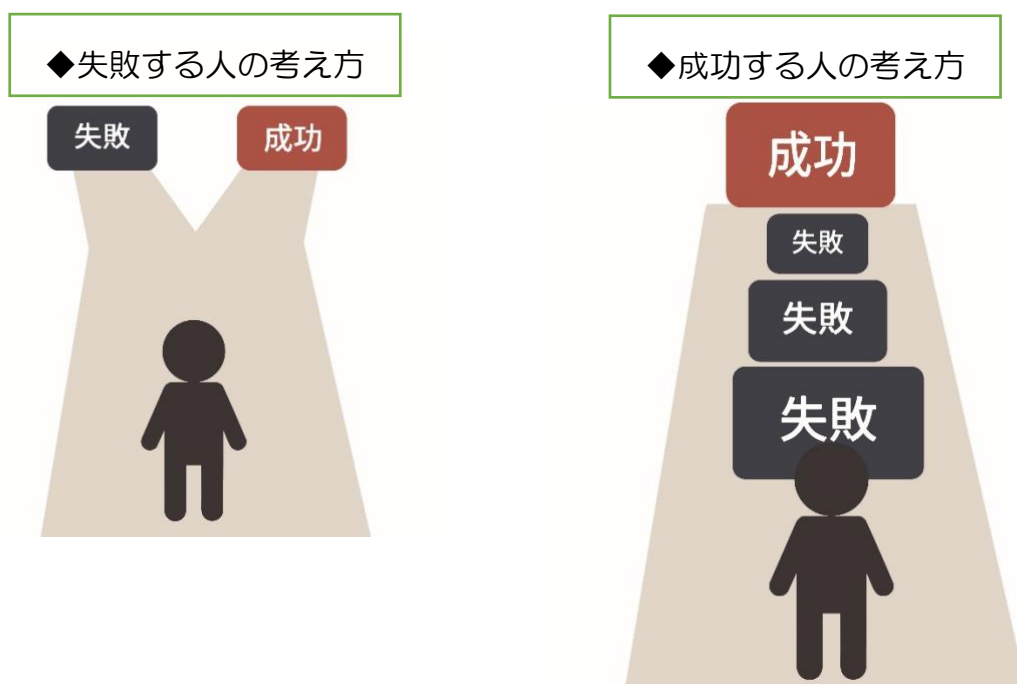
そんな11名が少しずつチーム内での役割が生まれ、それぞれが存在価値感をもてるようになり、組み合わさっていきました。一人一人が「大切なひとり」として存在していました。そして、「よし！みんなでチームを組もう」というマインドになっていました。

みなさんは心の中で「私にはできないことがある。でも私にしかできないこともある。同じように、誰かにはできないことがある。でも誰かにしかできないことがある。よし！みんなでチームを組もう」と思うことが大切です。そう思うことで、明るくポジティブに行動を起こせるようになります。クダクダと悩まなくなります。

みなさんの中には、「なんでこんなクラスなの。なんでこんなチームなの」と思っている人もいるかもしれません。しかし、みなさんなら、どんな状況であろうともしっかり組み合わさって、個人の力量を足したものの以上のクラス・チームになることができると思っています。さあ1年間の締めくくりです。

3学期も「成長はたし算」「チャーミングなファーストペンギン」でよろしく！

【ポジティブに行動を起こせない人の特徴は、成功か失敗の二択で考える癖がある】



お祈りをします

主なる神様

いつも生徒たちを守っていただいていることに感謝します

3学期がはじまります。生徒一人一人が「よし！みんなでチームを組もう」という気持ちになるために、励ましてください。

そのために、常にそばにいて、その時々にはさわしい知恵と勇気をお与えください

この願いを主イエス・キリストの御名によってお祈りいたします

アーメン